

# ふれあい

第 182 号

令和 6 年 3 月  
青森県立中央病院  
(題字は藤野院長)



すべては被災者のために

石澤 義也



当紙「ふれあい」をお読みの皆様の中には、ご出身やご親族が北陸地方に関係されている方もいらっしゃると思います。この度の能登半島地震において犠牲になられた241人(2月16日現在)の方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今も続く避難生活から、一日も早く平穏な日常が戻りますよう祈っております。

当院は青森県全県の災害医療を統括する基幹災害拠点病院に指定されており、被災地での医療や被災した病院の診療支援を行う医療チーム「DMAT」を有しています。DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており災害:Disaster、医療派遣:Medical Assistance、チーム:Teamの頭文字をとって「DMAT(ディーマット)」と呼ばれています。1995年1月17日に起きた阪神淡路大震災後の検証において、救命できたと考えられる「避けられた災害死」が500名あまりにのぼる可能性が報告されたことをきっかけに、災害時の医療提供体制の1つとして2005年にDMATが発足しました。DMATは1チームを医師、看護師、業務調整員(薬剤師、放射線技師、臨床工学士、理学療法士、事務員等)の3職種で構成し活動します。DMAT隊員になるためにはDMAT指定病院もしくは災害拠点病院に所属し、4日間のわたる災害医療派遣チーム(DMAT)隊員養成研修を終了する必要があります。現在当院には医師7名、看護師18名、業務調整員10名のDMAT隊員が在籍しており、定期的に訓練に参加して技能を維持しています。

1月1日に発災した能登半島地震においては、1月6日に厚生労働省DMAT事務局から青森県に対しDMAT派遣要請があり、当院からは1月6日から

1月11日まで石川県の公立穴水総合病院へ1チーム6名を派遣しました。公立穴水総合病院では、発災直後から不休で救急診療を続けてきた病院スタッフが疲弊していたため、私達が救急外来業務を交替し24時間体制で医療支援にあたりました。発災当初は、倒れてきた家具や、転倒による外傷の受診者が多かったようですが、私達が派遣された時には避難所からの発熱者や嘔吐下痢症の受診者が多くを占めていました。倒壊した家屋の下敷きとなり5日ぶりに救出された方を診療した事が強く印象に残っています。撤収日には金沢医科大学まで入院患者様の搬送し、そのまま青森までの帰路につきました。





その後、1月13日にもDMAT派遣要請があり当院からは1月16日から1月31日までの期間に合計4チーム21名が珠洲市へ派遣され活動しました。珠洲市では避難所や老健施設からの発熱患者を隔離し診療する業務にあたりました。前半に派遣された隊は、外気温の廊下で仮眠を取るなど過酷な環境下での活動し、全期間において上下水道は使用不能でしたので、派遣中はポータブルトイレに用便し自分で処理、当然洗髪入浴はできない環境下での活動となりました。最終日に避難所に送り出した高齢男性は、当院DMATの手厚い看護に大変感謝していただき、ずっとここに居たいとまで言ってくださったのが大変印象に残っています。

今回のような冬期降雪地帯での災害医療活動は今後の活動や装備の充実に向けて貴重な経験と知見を得ることができました。私達は「すべては被災者のために」この理念の基、今後も様々な災害に対し備えを万全にし、本県が被災した際には県民の皆様以最善の医療を提供できるように、基幹災害拠点病院に責務を果たして参ります。



## 退職にあたり

青森県立中央病院  
院長 藤野 安弘



この3月末、任期満了により病院長を退職することになりました。病院長は平成28年に拝命していますので在任は8年間になります。この間、新型コロナウイルス感染症により病院運営が何度か危機的状況に陥りましたが、幸い職員の皆さまの懸命なご努力により県民の健康を守るという当院の第一の使命を維持・継続することができました。

私は院長職の前、9年間副院長を勤めさせていただきました。この時の最大の思い出は東日本大震災です。3月のまだ寒い金曜日の午後、東日本を襲った大地震のすさまじさに病院運営への不安感がものすごく強かったことを覚えています。幸い早期の設備インフラの回復により最低限の病院機能は維持することができましたが、このとき多くの近隣住民の方から、停電の真っ暗闇の中で当院の最上部に光る緑色の青森県のシンボルマークは何よりも心強く心の支えになったとお聞きしました。青森県立中央病院は、いかなる災(わざわ)いにも、いかなる禍(わざわ)いにも、絶対屈することなく我々の使命を全うできる強靱な病院だと確信しております。

私は新築移転3年後の昭和59年から約3年間当院に勤務しました。このときはまだ新しくピカピカでものすごく広い建物だったのですが、平成11年に大学から再度当院に赴任して25年、いまや病院は老朽化し建て替えの検討に入っており長い歴史を感じます。今後新たな体制の下で当院がさらに大きく輝いていきますよう祈っております。

私には5歳の孫(男の子)に加え、多くの宝物があります、医学生時代の自分で作った心電図の本(研修医のみんなに自慢しています)、一回目の県病勤務時代の手書きの心臓カテーテル検査台帳、弘前大学病院勤務時代の臨床研究データ、二回目勤務の今は自分の行動を記録した日記替わりの手帳がそうです。でもやはり最大の宝物は、職員の皆様と一緒に過ごしたさまざまな経験と、なにもまして、当院で懸命に働いてくださった、またくださっている職員おひとりおひとりのみなさまです。職員の皆さま、長い間本当にありがとうございました、どうか皆さまもお元気で。

## 長い間お世話になりました

病院事業管理者  
吉田 茂昭



本年3月をもって退任することとなりました。思い返してみますと赴任以来17年の時が流れたこととなります。赴任当初、県病は累積赤字が100億円近い、典型的な地方病院の一つといった印象でしたが、短命県返上を目指した診療機能のセンター化、継続的な高額医療器機の整備(5台のマルチスライスCT、3台のMRI装置、コンビーム血管撮影装置、PET-CT、ロボット手術装置、ハイブリッド手術室、放射線治療装置、次世代シーケンサーなど)、更にはドクターヘリの拠点としての救急救命センターの新築整備などにより、今では全国レベルの診療実績を誇れる病院となりました。また、経営改善に向けた諸改革も進められ、当初の累積赤字を4年で黒字転換し、以後12年間黒字決算を続けて参りました。私としては、今、

予想を超えて逞しく成長を遂げた息子を見上げるような感慨に浸っておりますが、この間、三村申吾前知事から有形無形のご支援を頂いたことを、決して忘れることはできません。当初の目標であった短命県の返上は未だ達成されていませんが、他県との差は着実に詰めてきております。また、市民病院との統合による新たな地平も開かれつつあります。こうしたやり残した課題もありますが、素晴らしいスタッフが居りますので、何の心配も、思い残すこともなく青森を去ることができます。

本当に長い間お世話になりました。皆様から頂いたご厚情に対し衷心より感謝申し上げます、退任のご挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

患者さんやご家族のための

県立中央病院近く

# 宿泊施設のご案内

◎遠くから県立中央病院等へ通院・入院する患者さんや、付き添われるご家族のための宿泊施設です。



## 宿泊(1室1泊 前金制 税込)

シングル	(全8室)	2,500円
ダブル	(全1室)	4,000円
ツイン	(全2室)	5,000円
駐車料金	(1台)	100円

## 【利用案内】

- ◆下記の電話番号へご連絡下さい。直接来館しての申込も可能です。
- ◆日帰り休憩も可能です。(2時間600円～)
- ◆周産期の患者さんやご家族は、ダブルを2,500円で利用できます。

## 【受付時間】

月曜日～土曜日 8:00～18:00

チェックイン 13:00～17:00

チェックアウト 8:00～11:00

※上記時間外の対応も可能です。

## MAP



## 【施設概要】

客室設備：ベッド、エアコン、テレビ、冷蔵庫、机、椅子、電気ポット等  
共用設備：トイレ、洗面所、シャワー室、電子レンジ、コインランドリー  
その他：タオルや石鹸などアメニティ類は備え付けておりません。(有料貸出・販売での対応)

## 【ご予約・お問い合わせ】

☎ 017-736-5332

- ◆お電話にて、氏名・連絡先・希望の宿泊日(日程、人数)等をお知らせください。
- ◆当日予約や休日(日・祝)の宿泊も可能です。
- ◆夜間や休日は転送電話での対応になりますので、急患などの場合を除き、なるべく受付時間内にご予約・お問い合わせください。

## ファミリーハウスあomorい

〒030-0913  
青森市東造道1-3-1  
<https://www.familyhouse-aomori.jp/>



【管理・運営】NPO法人青森地域再生コモンズ